

会 議 録

会 議 名	平成29年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課 (はけの森美術館)		
開 催 日 時	平成29年4月25日 (火) 18時30分～20時00分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 上原佐世子委員 川崎京子委員 小林正隆委員 鈴木遵矢委員		
事 務 局 員	学芸顧問 薩摩雅登 コミュニティ文化課文化推進係 吉川、永井 同 はけの森美術館学芸員 鈴木、中村		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	(1) 展覧会「開館10周年記念 ささまざまな道程—寄贈作品に見る中村研一の姿」観覧 (2) 事務局紹介 (人事異動対象者) (3) 事業実施報告等 (4) 平成29年度予算について (5) 意見交換等、次回日程調整について		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	(1) 開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定 (2) 平成29年度年間スケジュール (3) ワークショップ等アンケート結果 (一式) (4) 平成29年度予算について		

平成29年度 第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成29年4月25日(火)

【山村委員】 皆さん、こんばんは。本日はご多忙の中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。ただいまより、平成29年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

次第の1の展覧会の観覧につきましては、ごらんいただけたと思いますので、早速次の議題に進ませていただきます。

事務局の紹介をお願いします。

【鈴木委員(館長)】 では、私のほうから。4月1日付で人事異動がございましたので、今回委員の変更がございました。前任の平岡コミュニティ文化課長が4月1日付で異動になりまして、後任として私、鈴木遵矢と申します。コミュニティ文化課長兼美術館の館長ということで着任いたしました。よろしくお願いいたします。

【山村委員】 ありがとうございます。

それでは、新年度ということもございますので、委員の皆様も一人ずつ自己紹介をお願いしたいのですが、私からいきましょうか。

東京都美術館の学芸担当課長をしております山村と申します。よろしくお願いいたします。

【小林委員】 教育委員会の指導室長をしております小林正隆です。よろしくお願いいたします。

【上原委員】 市民から公募で選ばれました上原と申します。よろしくお願いいたします。

【川崎委員】 同じく市民公募で選んでいただきました川崎と申します。よろしくお願いいたします。

【山村委員】 ありがとうございます。鉄矢委員長がいらしたら代わるということで、そこまで司会のほうを代行させていただきます。

次に、本日の配付資料の確認を、事務局のほうでよろしくお願いいたします。

【事務局】 はい。では、事務局より配付資料のご説明をさせていただきます。まず一番上に本日の次第、それから資料1、2、3、4と付番されているものがあるかと思えます。一番下に前回の会議録の校正のご案内と、それから会議録の原稿がございます。そのほかに、現在開催中の所蔵作品展のチラシと、あと冊子になっています名作選、中村研一

の時代とございます。今、申し上げた資料の中で何か不足なものはございますか。もし、不足書類等ございましたらおっしゃってください。以上です。

【山村委員】 ありがとうございます。

それでは次第の3の、事業実施報告等の(1)開催した展覧会・ワークショップ等につきまして、事務局から説明をお願いします。

【中村学芸員】 はい。では、まず開催した展覧会・ワークショップ等を報告させていただきます。

既に展示室をごらんいただいておりますが、所蔵作品展を開催中です。資料1にありますように「開館10周年記念 さまざまな道程—寄贈作品に見る中村研一の姿」、2016年度が開館10周年記念だったということで、そちらから最後の締めくくりという形になります。10年の間に寄贈でどういうものが当館に入ってきたかということを中心に展示構成をしております。会期が3月25日から5月14日となっております、大体半分ぐらい会期が過ぎたところです。観覧者数としては現在までに482人の大人のお客様と、それから子どもの方が19人ということでご来館いただいております。

関連企画としては、既に実施されているマーブリング教室というワークショップと、それから既に1回、ギャラリートークのほうの実施されております。あともう一回、5月13日にギャラリートークを実施する予定です。マーブリングのワークショップに関しましては教育普及事業のほうで詳しく説明させていただきます。ギャラリートークのほうは4月22日、つい先日実施いたしました。ちょっと天気などの影響もありまして、やや少なかつたんですけども、4名のお客様に来ていただきまして、特に寄贈作品でどういうものが入ってきたかということを中心に展示の内容を解説いたしました。所蔵作品展チラシのデザインなどに関しましては、学芸大の正木先生にご協力いただきまして、チラシのデザインなどは行いまして、「さまざまな道程」というタイトルの、道という字を生かしたチラシをつくってもらっています。

所蔵作品展のことについては以上になります。

あわせて、ここで話としては展示から少し外れますが、一緒にお配りしている名作選に関しましてもご案内させていただきます。皆様のお手元に「中村研一とその時代」と題しました名作選がございます。こちら、開館10周年記念ということで、このたび作成したのになっておりまして、3月にちょうど納品されたばかりのもので、当館の所蔵している作品の中から代表的なものを紹介して、それにあわせて解説を少しつけるというよう

な形をとっています。代表的なものとお申しあげましたが、こちらの内容に関しましては、開館した当時につくった図録というのがまだございまして、そちらとできるだけ内容がかぶらないように、そちらのほうで収録できなかった作品を重点的に紹介するというような形で、作品を選んでおります。こちらの10周年記念の図録に関しましては、一般にはまだ販売などはしていないんですけれども、関連した美術館などにお配りしているところで、内容等、できるだけ皆様に見ていただければというふうに思っております。

展覧会と、少し話が外れましたけれど、名作選に関しては、以上となります。

—会長到着により進行交替—

【鉄矢会長】 何か質問、意見等ありましたらお願いいたします。

では進めます。

【中村学芸員】 教育普及事業について続いて説明させていただきます。先ほどの展示のことよりも前のところから、まず、職場体験学習が2月15日に実施されました。こちらの東中学校の職場体験学習につきましては、一旦、インフルエンザの大流行で中止になっていたんですけれども、生徒からの要望が多いということで、急遽開催されることになりまして、この2月15日に来てもらうということになりました。最初の予定では3日間の日程だったのですが、インフルエンザがあって一旦中止になって、1日という形になりましたので、内容としては当初予定していたものよりも圧縮して、1日で行えることをやることになりました。今、スライドで映していますけれども、実際に作品調書をとるというようなことを体験してもらおうということで、多目的室で、作品のレプリカを自分たちで観察して、いろいろ気づいたことを調書用のシートに書き込んでもらうということを体験してもらいました。写真にも写っていますけれども、参加者としては、男女それぞれ2名ずつ、計4名の生徒さんが来てくれました。

それから、3月31日に、今回の所蔵作品展に関連するワークショップとして、みんなのマーブリング教室と題しまして、マーブリングをするワークショップを実施いたしました。こちらについては、講師として、以前から読み聞かせなどで協力をいただいている、「こごうちぶんこことりのへや」の皆さんに協力をお願いしました。今回の所蔵作品展から少し発想を広げていって、色彩を考えるワークショップにしてはどうかという考えで、マーブリング技法について体験してもらおうという内容にしました。

今、ちょうど説明しているところを映していますけれども、このマーブリンを使って、ただつくるだけではちょっとそのままになってしまうので、マーブリングをしてつくった

ものを使って、小物をつくってもらおうと考えました。こごうちぶんこの皆さんにまずマーブリングのやり方を説明してもらって、その後に参加者が、実際にマーブリングを体験しました。でき上がったマーブリングをこういうふうに合わせて一旦ちょっと乾かして、ブックカバーとかティッシュケース、それからペンスタンドをつくってもらいました。

こちらの参加者に関しましては、資料にもありますように、大人6名、子ども7名という形で計13名の方に参加していただきました。制作を実際にやったのは子どもさんが中心でしたが、実際にやった人のアンケートでは、マーブリングを体験して、そのマーブリングを体験したものを使って小物をつくるということで、すぐにそういうものが形になるということがすごくよかったというような感想をいただいています。また、今回のこのマーブリングで初めて体験してみたけれども、家でもできるということなので、実際に帰ってもう一回やってみたいとか、次につながるような結構意欲的な感想をいただきました。

実施した教育普及活動に関しては以上となります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

ワークショップ等について、何か質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

【山村委員】 この名作選の、ちょっとありますね。これ、すごくよくできていると思うんですけど、これは販売とかもうしているんですか。

【中村学芸員】 そちらに関しまして、実は販売したいというか、もともと、ここでそういう代表的な作品を紹介するようなものをつくって、気軽に購入してもらえようものが欲しいということで制作をスタートしたんですけども、実は少し助成金を受けている関係などで、有償頒布をすることについて、まだ市との調整が済んでいないんですね。こちらに関しては、実は当館としても有償頒布というか、お客様にできるだけ早いうちに販売したいと考えているんですけども、なかなかその調整が済んでいないために、ものは既に納品されているのに表に出せないという、なかなかもどかしい状況になっております。そこをできるだけ早いうちに解決して、お客様にもお目にかけるといふ形にしたいというふうに思っています。

【山村委員】 何冊ぐらい刷って、販売分が何冊で、資料送付、いろいろな美術館とか図書館等に送付分が何冊で、保存分が何冊とか、そういうのは大体決まっているんですか、計画は。

【中村学芸員】 既に、関係する美術館などに発送させていただいたものが大体200部ぐらいございます。現在、これ、まとめてつくった数としては、600部でつくって

るんですけれども、実は、この最初に入った600部というものがなかなか販売できないものですから、追加で印刷した分に関しては販売ができるようにしようというふうに考えているんです。

【事務局】 最初につくった分が、どうしても文化庁の助成金がそこに入っているものですから、展覧会とリンクしていれば展覧会と一緒に売れたんですけれども、暫定予算の関係とかで展覧会からずれてしまって作成したものですから、そちらを一応今、資料用としておつくりしていて、販売用は新年度の予算で同じものを作成して、お売りするという形にしています。

【山村委員】 多くの市民としては、手に渡って、なるべく安い価格で、幾らで売るかはまだわかりませんが、手に入れるようにできればと思いますので、よろしくお願いします。

【鉄矢会長】 では、次に次第3の(2)今後の開催予定の展覧会・ワークショップ等について、事務局からご説明をお願いします。

【中村学芸員】 では、こちら今後開催予定の展覧会・ワークショップ等。まず1つ目の展覧会については、中村から報告させていただきます。

企画展が続けて2回予定されております。まず1つ目の企画展としましては、日本画家の伊東深水を紹介する展示を夏ごろに予定しております。時期としましては、7月下旬から9月中旬ぐらいまでの2カ月半ぐらいの会期を見込んでおります。こちらでは、市川市のほうで所蔵している「南方風俗スケッチ」という、伊東深水の作品の中でも戦争中に東南アジアでかかれたものを紹介するという企画を考えております。この市川市が所蔵している「南方風俗スケッチ」というのが270点くらいあるということです。こちらの中から借用させていただいて、この同じ時期に、中村研一も東南アジアのほうに従軍画家として行っていますので、洋画家がかいた南方の様子と日本画家がかいた南方の様子を展示室の中で対比しながら見ていただくという内容を考えています。まだちょっと細かいところは調整中なんですけれども、スライドで映しているような作品というようなものを市川市のほうがまとめて所蔵しているということです。

伊東深水、日本画家としては美しい女性像をかいたというイメージが強いんですけれども、南方のこういう結構詳細なスケッチ、色つきのものをかなり残しております。どこで、いつかいたということが日付まではっきりしているものです。日付とどこでかいたというのがわかるようなものをピックアップして行って、特にシンガポールのあたりですと、中

村研一がいた場所ともかぶりますので、できるだけ中村研一と比べながらやってみたいというふうに考えています。

こちらの南方風俗スケッチという作品に関しましては、軍事郵便の絵ハガキの原画にも使われたということがわかっておりますので、そういったところともあわせて紹介していきたいというふうに考えております。2つ目の展示に関しましては、鈴木から報告させていただきます。

【鈴木学芸員】 2つ目の企画展としまして、まだ仮称のままですけれども、児島善三郎の展覧会を考えています。会期としましては、11月上旬から12月中旬を見込んでまして、まだ構想中の段階ではありますが、基本的には児島善三郎が国分寺にいた、国分寺の時代の作品を中心に作品を展示しようというふうに考えています。特に、国分寺の時代作品の武蔵野の風景を中心としようと思っているんですけれども、あわせて、中村研一の小金井時代の作品なども展示して、児島と中村の交流や対応を視覚化することができるような展示構成にしたいと考えております。

【中村学芸員】 続けて、教育普及事業として今後開催される予定のものについても報告させていただきます。確定しておりますのは、鑑賞教室です。これは例年行っているものですが、鑑賞教室の予定としましては、資料の2ページ目に挙げているとおりで、今年も市内の各小学校が来館する予定になっています。

直近としましては、5月9日に南小学校が早速来館する予定でして、5月9日ですので、こちらは今回行っている所蔵作品展を見てもらいます。次の9月の2校に関しては、上の展覧会予定にもありますように、伊東深水の会期の終わりぐらいに来てもらう予定、11月以降から12月にかけてのところは、2つ目の児島善三郎のところに来てもらうという形になっております。やはり例年と同じように11月からの時期に大部分の学校が集中するという形をとっています。

あわせて、希望があった学校に関しては、事前の授業で行う予定ですが、こちらの希望等は今、とっている状態です。今後のこちらの運営協議会の中でもあわせておいおい報告させていただく形になるかと思えます。

鑑賞教室に関しては以上になります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。何か、質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

8月、ちょうど終戦記念日とかかぶりそうですね。この南方というところで、どうい

ふうはこの芸術と戦争というものとをとらえて、学芸員がどういうことをやるのかというのがきっちり明文化できると、もしかしたら各国の大使館の方も見たい絵なのではないかと思えます。このように広げて見てもらえる場というのは少ないんだろうと思うんです。その国の人たちの気持ちを考えるとどうかわからないんですけども、そのところが芸術であるという話と記録であるとかいうようなことがしっかりできたら、オープニングパーティーにそういう大使館の方を呼ぶと、興味深いただろうなど。南方での戦争のことを避けて通るのか、それとも、一応対峙してちゃんと向き合っているのか、多分これから研究なさっていく中で、この絵を見る中で出てくると思えます。今答えなくていいんです。意見です。

【中村学芸員】 市川市の所蔵している伊東深水の南方風俗スケッチというのは、これは1943年4月から7月に南方で描かれました。そもそも従軍画家として伊東深水是南方に行っているんですけども、にもかかわらず、今、スライドで映しているとおり、実はすごくそういう戦争の影というのが薄い絵だというふうに今まで言われてきたシリーズなんです。見ていただいてもわかるように、この時期にしてはかなりいい絵具を使っていますし、反面ダイレクトに戦争中であるということがわかるものが出てこないというふうに言われてきて、あえてそういったものがかかなかったか、もしくは伊東深水是そういうものをかけない画家だったのだというような形で理解されてきた作品群です。一方で、逆にそういうふうにかかなかったものが、軍事郵便の絵葉書の原画として使われているという意味では、おそらく、一見してそういう戦争にかかわるモチーフがないんですけども、南方を日本という国の占領下に組み入れていくイメージであり、それをよしとするようなものがあるのではないかとこのころがあります。そこを改めて考えてみたいというふうに思っています。実際、中村研一で当館が所蔵している同時期のものの南方のスケッチの中では、結構はっきりわかりやすく戦争中であることが示されたモチーフが含まれていたりもしますので、そういったところでも洋画家と日本画家という対比だけではなくて、はっきりと戦争中であることがわかるものを書き入れた中村研一と、そういうものがかかずに、一見すると非常に美しい南方の風景という形でかいていた伊東深水とが、同時期にそれぞれ戦争を描く従軍画家として南方に行っていたという、それでどちらも認められていたという意味をちょっと考えてみたいと思っています。

【山村委員】 関連して、できればなんですけど、地図とか年表とかを、その2人の画家の写生地とか、写生した時期等を絡めて、それこそ中学生が来てもわかるというか、

ああ、こういうことがあったんだなど、こういう時期にこういう社会的な状況があつて、この2人が、従軍画家って何かわからないかもしれないけれど、わかりやすく説明して、それで、具体的に中学生がイメージできるような歴史的な事実を、ぜひ地図と年表、つくっていただけるといいかなと思いますので、よろしくお願いします。

【中村学芸員】 わかりました。

【鉄矢会長】 先ほど言ったのは、僕ら自身が、自国の壊されていない状況とか、産業、大量生産大量消費になる前の日本の様子って見ると、ああ、こうだったんだって思うのもあるので、そういう意味ではこれがもしかしたらグローバル化に入ってくる前の自国の美しい場面だと思うと、その人たちも喜ぶのかもしれないです。はっきりは。ただ、何かそういう自分に置きかえて考えてみたり、いろいろしながら、ぜひ学芸員さん、いいメッセージを出していただけるとおもしろそうだなという気がするんです。

【山村委員】 あともう1個、済みません、児島善三郎展のほうですけど、かつて府中市美術館でもやったことがあつて、国分寺市内の特に児島についてはその当時からファンだった人とか、まだご存命の方もいらっしゃるの、できればそういうところにも聞きながら、写真とかお借りしてやるといいかなと思うのと、それから、中村研一との交流というのは、私、あまり知らないの、その辺もよく掘り下げてもらえると……。

【鈴木学芸員】 そうですね。府中市美術館であった展覧会が、大きいのがあったと思いますので、なるべくそういうことは違う側面を出してもらえればいいなと。

【山村委員】 具体的に中村研一とのやりとりってあるんですか。

【鈴木学芸員】 ちょうど国分寺に児島がいたときに、中村研一の家を訪れたりとか、日記などに残っているんですけども…。

【山村委員】 同じ久留米の出身で。

【鈴木学芸員】 そうです。同じ。

【山村委員】 福岡のご出身。学校の。

【鈴木学芸員】 そうです、先輩です。

【山村委員】 どこだっけ。

【鈴木学芸員】 修猷館。

【山村委員】 修猷館か。パレットクラブに入った。

【鈴木学芸員】 パレット会からの長いおつき合い。

【山村委員】 交流がないわけではないので。

【鈴木学芸員】 そうですね。

【薩摩学芸顧問】 その辺はちょっとできる限り調べてみるとおもしろい。というのは、同じ高校の先輩後輩で、同じクラブにいて、サークルにいて、それで生前の一時期はお二人共に代々木に住んでいて、それから国分寺と小金井。当然、非常に交流がありそうに見えて、実は、属したのが中村研一は官展で、児島善三郎は独立美術協会ですので、そのあたりでどういう交流だったのかなというところが、ちょっとおもしろいところだと思います。

【山村委員】 意外に、あまり証拠がないんだよね。

【薩摩学芸顧問】 そうなんですよ。

【鈴木学芸員】 その辺が、すごくなぞにつつまれているんです。

【鉄矢会長】 皆さんのいろいろな人の推理の対談を聞くだけでもおもしろいですね。どうなんだとか、これこうなんじゃないのとか、こういうこともあり得るんじゃないのか、など。僕らが絵画の人たちに思いをはせるってそういうことかなと。イベント的なものですけれども。

そのほか、ご意見等ございましたら。

では、4番目。次第第4、平成29年度予算について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それでは、平成29年度予算状況について、事務局から説明させていただきます。資料の4に記載されているとおり、運営・維持管理・事業、緑地の維持管理まで含めて、3,114万8,000円というのが総額です。当市は、かなり財政状況が厳しいんですけれども、その中でもこの美術館にはどうか、よそ様から見たら少ないんですけども、当市としてはかなり頑張って計上してもらっている予算というふうに思っています。

予算に関する特徴ですが、はけの森美術館の運営に要する経費の中に、年報を3年に1回発行しておりますので、今年は年報発行年でありますので、年報の印刷費と、新しいオリジナルグッズでトートバッグが1階に出ておりますけれども、あれは平成28年度に新しいグッズを作って試験的に販売してみようということで作ったものなので、販売状況を見ながら同じトートバッグを作るのか、違うグッズを作るのかということで、些少ですがそのオリジナルグッズの製作費用というのが認められましたので、そちらがついております。

あと、事業のほうで、ずっと作品の修復費というのがついていなかったんですけども、

明治神宮という作品が、今回の展覧会にも出ていますけれども、ご寄附いただいたこの明治神宮の絵がかなり貴重だったということで、他館からも借用の依頼なども来ているという作品ですので、どうかこちらの修復費をもらえないかということで、今回、修復の予算が認められまして、些少ですがつきましたので、薩摩先生の大学にお願いして修復していただこうと思っております。あと、同じく今回の展覧会に、少し額縁が傷んでいる絵が出ているんですけども、この額縁を直したいのですが、額縁の作製費は、また今年度もつきませんでした。でも、あきらめないで毎年要求していこうと思っております。

助成金ですが、これはまだ今、助成金が反映されていない金額が計上されていますが、採択、決定されている助成金がありますので、今後、補正予算等で予算化していきます。1つが、文化庁の文化芸術振興費補助金で、平成28年度に続き、平成29年度も採択されましたので、文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業と補助事業のネーミングが変わっておりますが、こちらからコミュニティ文化課所管の芸術文化事業全般、美術館事業を含むものに587万7,000円、採択されましたので、こちらをごらんいただきたいと思っております。

もうひとつあるんですけど、ごめんなさい、資料をつくり直したときに抜けてしましまして、もう一つは、一般財団法人地域創造の平成29、30年度市町村立美術館活性化事業、第18回共同巡回展というもの、こちらも採択されましたので、平成29年度は準備年度期間となりますので、準備年度に係る経費については一般財団法人地域創造のほうから助成していただけるというものもあります。内容については、中村学芸員から。

【中村学芸員】 日光に、小杉放菴記念美術館という美術館があるんですけども、1930年代の後半から大体1950年とか60年とか、そのあたりまでの国立公園がかかれたいろいろな絵を一括して今、保管しているんですね。こちらの小杉放菴記念美術館が持っている国立公園の絵を巡回展の中で紹介していくというのが、この一般財団法人地域創造の18回目の共同巡回展の大きな柱で、実は、この国立公園をかいたというのにもいろいろな国立公園が含まれるわけですけども、大雪山をかいた絵で中村研一がかいたものが含まれておりまして、それ以外にも研一の弟である琢二であるとか、それから、直接親交のあった辻永みたいな、かなり近い関係の画家の作品も含んでおります。今回こちらのほうに申請をしまして、参加を採択されました。当館を含めて4館参加することが決まっております、北海道のほうは1館と、それから愛知と広島と、東京は当館になります。巡回をするということになっていまして、まだ具体的な時期ですとか、どういうふうに通

いていくのかというところは、これから決まっていく話ですけれども、29年度のほうで準備をして、30年に実施されるという見通しになっています。

【事務局】 これから打ち合わせ等が入りますけれども、当館が、この共同巡回展に、参加するのは、佐藤慶次郎展と猪熊弦一郎展に続き、これが3回目になります。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

今に関して質問などございますでしょうか。予算の説明ですね。こうなりましたという報告に近いものでした。

【薩摩学芸顧問】 何かよたよたふらふらしているようで、意外にちょこちょこっと、この美術館には補助金とか助成金がつくんですね。この国立公園の作品は、何で小杉放菴に入ったのかな？

【中村学芸員】 あれはもともと別の財団法人が持っていて、それが解体されるときに引き取ったみたいなんです。

【薩摩学芸顧問】 国立公園協会か何かが依頼したのね、いろいろな作家に。それが解体されるときに、小杉放菴に入った。

【中村学芸員】 なんで小杉になったのかはよくわからない。

【山村委員】 あれは市立ですよ。だれと言ったっけ、あれは。

【中村学芸員】 日光だから……。

【中村学芸員】 選ばれた作家を見てると、やはり、白馬会、光風会系が多いので、そういう意味ではちょっとおもしろいんだと思います。ここでやるのも……。

【山村委員】 4館の巡回となったら、ぜひリーダーシップをとって。やり方によってはおもしろいなと思うので。

【中村学芸員】 都内は当館だけですので、そういう意味ではポイントになってくる巡回展だと思います。

【鉄矢会長】 ほかにご意見等がなければ、意見交換等に入りますが、よろしいですか。

では、意見交換等、ございましたら。

たまたま学芸大の入学式のときにこちらの市長さんがいらっしゃって、オリンピックの旗を振って、オリンピック頑張るぞと言ってたんですけど、オリンピックのときって美術館、何しているんですか。というのがまだないと思うんですけども、そのとき、私、学芸員じゃないよというかもしれないんですけど、何しているんだろうなというのを想

像してもおもしろいのかなって、単純に64年の五輪をただここに並べててもおもしろいのかもしれない。小金井市民、みんなどこかで持ってそうです。64年のチケットとかね。何やるのかわからないんですけど、きっと無縁のものをただ展示してますということはないような気もするし、今から中村研一の64年ころのものを引っ張るというのものもあるのかもしれないです。というのが意見です。

【山村委員】　　とりあえず、国立とか4カ国語対応とかね。多言語とか、夜、なるべく開けるように夜間開館とか、そうするんですけど、都立もそういう流れになるんですけど、その辺どうですか。市のほう、どうですか。影響受けるんですか。

【中村学芸員】　　ちょっとこういう言い方はあまり適当ではないと思うんですけども、私ども1年ごとで、その次の年以降の話というのは、はっきりとしたことは私たち自身にもわからないというか、1年後にはここにいられるかどうかというのはちょっとわからないものですから。

【山村委員】　　今、館長にお聞きして……。

【鈴木委員（館長）】　　自分もオリンピックのときに、この職にいるかどうかは、私、わからないんですけど、今、非常におもしろいお話いただきまして、初めての会議で、どういうふうになるのかなと、何となく想像できなかつたんですけど、いろいろ提案いただいて、参考になる点があるなというふうに思いました。非常勤さんのお仕事については、成績優秀であれば4回に限って更新が可能というのもちょっと発言させていただきますけれども、確かに、オリンピックのときに全然関係ないことではなく、逆に補助金を引っ張ってこれないとか、そういうのひっくるめて何かちょっとアンテナ張っていろいろできないかというのは考えてみたいと思います。

【鉄矢会長】　　それまでに茶室がきれいになったとか、いいですね。

【事務局】　　私も補助金を申請する係なので、常に探しているんですけど、都のほうで文化芸術と何かこうタイアップしてどうとかと、中心のほうでは盛り上がっていることも、小さい自治体に、具体的に何が落ちてくるのという話は、今、全然まだ見えてこないですね。アーツカウンシル東京が、イベントは打っているようですけども。ただ、この文化庁の補助金には、訪日外国人対応ということが条件に必ず入ってきまして、小金井市がなぜ採択されているかという、美術館ではないんですが、小金井公園で開催される薪能と結城座の江戸文化体験事業というのに、外国人を呼んでくるというのも入っているんですね。それも入り、計画もあり、美術館もありという、そのトータル的なところで、毎

年文化庁からお金をもらえているのではないかなと思っています。オリンピックがらみで、何か補助金があれば申請するようになりたいと思っています。

【鉄矢会長】 お茶と言っても、野点されちゃうとどこでもできちゃいますしね。

【鉄矢会長】 茶室、直せないんですかね。朽ちるの待ってるの嫌ですもんね。

【事務局】 嫌ですね。ほんとうにそうですね。何かそういうのがあったら教えてください。

【鉄矢会長】 その他、ございますでしょうか。

【川崎委員】 特に関連したことじゃないかもしれないんですけども、日曜日、おととい、こちらの美術館の展示を見た後に、隣に新しくできたはげの森カフェに初めて行ってみたんですけど、展示もすごくよかったですし、カフェに行ったら、さっき美術館ですれ違ったご婦人が一人でふらっとカフェでやはりご飯を食べていらして、あと緑地も散策したんですけども、緑地を散策しているときは五、六人のご年配の団体の方が、そこを拠点にちょっと休憩されているみたいで、美術館へ行ってきたとか、じゃ、次、カフェに行こうとかかいう話をしているのが聞こえてきて、ちょっと回遊性が出てきたのかなと思って、いいことだなと実感できました。

【山村委員】 私、まだ行ったことないのですが、どういうカフェが入っているんですか。

【川崎委員】 小金井の地野菜を使ったお料理とか、中村研一さんがお好きだったのか、そのころのイメージのライスカレーというメニューがその日はあって、ほんとうにお料理自体もすごくおいしくて、スイーツもあって、お持ち帰り、テイクアウトはできないんですけども、ものすごくおいしくて。以前のカフェの雰囲気とそんなにならっと変わった感じではなくて、内装も割とそのままの雰囲気が残っていて、すばらしかったです。

今回の展示も、今も見てきたんですけども、過去の常設展も、四、五回は最低でも見ているんですけども、自分なりに結構新しい発見があって、中村研一さんが、2階の展示にあったんですけど、お茶の水差しを陶磁器でつくらせたりとか、日本画家の方とお茶の興味が共通している書簡を交換していたこととか、過去にも展示はされていたと思うんですけど、自分が見落としていたか、初めて気づいたことなんかもあって、割と繰り返し中村研一さんの作品を見るのもすごくいいことだなと、改めて思いました。

【鉄矢会長】 ご意見、ありがとうございます。

【小林委員】 私は、美術が得意なほうではなかったのですが、この美術館に来させていた

だいて、中村さんの絵を見て、きょうは大分早目に来たので、見させていただいて、興味、関心が湧くと、こういうところから子どもって学んでいくのかなんていうことを思いました。教育普及活動について、いつもお世話になっております。ありがとうございます。今年度も展覧会に合わせて見させていただくというお話もありましたので、また学校のほうからも様子を聞いてみたいと思いますが、また何か調整があれば、私のほうに言っていただければ、何かとやっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

【鉄矢会長】 ほかに。

職場体験は、学芸員になりたいとか口走った子はいるんですか。

【中村学芸員】 やはり興味があって、美術館はどういうことをやっているか、気になったから来たという人と、あと、意外に、美術館の空間が苦手だから、あえてそういう苦手な空間を体験してみようと思って来たという。たしかサッカー部の男の子だったと思いますけれども、そういう活動的な自分が、静かにしなければいけない空間にいることに対して、すごくプレッシャーを感じるので、逆にそういう空間を克服するためにはどうすればいいのかを知りたくてというようなことを言っていた子がいました。

【鉄矢会長】 おもしろいな。

【山村委員】 作品の点検以外はどういうことをやらせたんですか。

【中村学芸員】 あとは、ここの美術館のやはり問題点というのがどういうところにあるのかということ、実際にちょっと考えてもらおうということで、これは少しワークシートみたいなものをつくって配ったんですけれども、美術館の周りをちょっと歩いてもらったりして、美術館の看板がどこにあってとか、この美術館は駅から距離が少しあって、駅から歩いてきたりすると道に迷ってしまったりとか、途中で不安になってお電話してきたりするお客さんもいらっしゃるので、そういうところの部分をちょっと自分で感じてもらったりとか、じゃ、逆に、そういう美術館の問題というのが見えてきたら、それをどういうふうに打開していけばいいんだろうかということ、少し現実的な方法として考えてもらうということをやりました。

今回の報告した東中学校に関しては1日だったので、かなり時間としては限定されてしまう状態だったので、どちらかという、あまりみっちりできずに、そういうことを一通りさわりをやってみるみたいな形にはなってしまったんですけれども、そういう問題点を考えるということと、それから、展示作品のことを実際に触ってみたり、書いてみたりということとやるという意味では、休館中だからこそそのところというところをちょっとやっ

てみたという感じです。

【鈴木学芸員】 他にはディスクリプションをしてもらいました。

【山村委員】 ほう、すごいね。それは見て、言葉で言う。

【鈴木学芸員】 そうです。言葉で、文章に書かせてみました。

【鉄矢会長】 楽しかったですか。学芸員側は楽しかった。

【鈴木学芸員】 ええ、楽しかったですね。中学生はこういう言葉遣いもするんだと関心しました。

【山村委員】 アカデミックだよな。

【鈴木学芸員】 そうですね。ちょっとアカデミックな試みもしてみました。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

では、その他、次回の日程調整についてですけれども、まずは会議録の校正について、事務局からお願いします。

【事務局】 今回は、前回の28年度、第4回の会議録の案を皆様のお手元にお配りしています。目を通していただき、訂正などございましたら、5月12日の金曜日までに、コミュニティ文化課までご連絡ください。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

それでは、今の説明のとおり、よろしくをお願いします。

では、次回日程について、どなたかご意見はございますでしょうか。

【鈴木委員（館長）】 昨年8月下旬に開催しておりました。例年ですと7月下旬から8月上旬ぐらいに第2回目の日程を確保しているようです。7月25日あたりとか、皆様のご予定はいかがでしょうか。最終週ぐらいですかね。

～調整～

【鉄矢会長】 では、7月26日、水曜日、18時30分からということで、よろしくをお願いします。

ほかにありますでしょうか。

なければ、以上で、はけの森美術館運営協議会を終了いたします。お疲れさまでした。

— 了 —